

保育現場で求められる音楽能力と指導力の向上をめざして

向山 裕子
四條畷学園短期大学

Improving music and teaching skills required in nurseries

Hiroko Mukoyama
Shijonawate Gakuen Junior College

四條畷学園短期大学紀要 第50号 別刷
平成29年12月25日

研究報告

保育現場で求められる音楽能力と指導力の向上をめざして

向山 裕子*

Improving music and teaching skills required in nurseries

Hiroko Mukoyama

1. はじめに

保育現場において音楽は大きな位置を占めている。「おはよう」「いただきます」「おかたづけ」「おかえり」など、何をするにも音楽が関わり、生活リズムを作っている。さらに運動会、生活発表会、季節ごとの行事にも音楽が中心になっている。

このように子どもたちは、生活にリズムを感じ、自分の思いを表現し、友達や保育者と共有する喜びを音楽から与えられている。まさに園生活は「音楽と共にある。」といっても過言ではない。このような保育現場で行なわれる様々な音楽活動において、その要となるのが保育者の音楽能力である。その良し悪しが時として子どもたちの生活リズムを左右し「心の教育」「コミュニケーション力」「共感・共有能力」の発達にも大いに影響を与える。

では保育現場で現実に必要なとされる音楽能力とはどのようなものであろうか。

2. 歌唱

保育現場において、歌唱は最も身近な音楽表現である。歌唱指導の際、子どもたちは保育者の歌う様子や口元をじっと見つめ、真似ながら一緒に口ずさもうとする。歌詞が分からなくても耳でキャッチした言葉を発しながら歌い、好奇心を持って歌声に目や耳を傾け模倣しようとする。

一方保育者は、自然で美しい歌声、豊かな表現能力、子どもの様子を総合的に捉え、表現することを促すことのできる力が必要とされる。

しかし現実の子どもたちはどうだろう。元気良く歌おうとするあまり、大きな怒鳴るような声で、音程やメロディーを感じられない声で歌っている

のを良く耳にする。本学の音楽教員は、実際に付属幼稚園で音楽指導を行い、併設されている音楽教室でも子どもたちに指導を行なっている。そこで実践している発声法を紹介しよう。

●発声「かえるのうた」を使って（譜例1）

へ長調→お母さんかえる…お母さんのように優しく歌うように声がけをする。

ト長調→お姉さんかえる…お姉さんのようにもっと優しく歌うように声がけをする。

イ長調→お父さんかえる…お父さんのようにかっこよくゆったり歌うように。

1 オクターブ高いイ長調→赤ちゃんかえる…赤ちゃんのように弱く小さく。

譜例1 かえるの合唱 岡本敏明 作詞
ドイツ 曲

かえるのうたが きこえてくるよ
かえるのうたが きこえてくるよ
かえるのうたが きこえてくるよ
かえるのうたが きこえてくるよ
かえるのうたが きこえてくるよ
かえるのうたが きこえてくるよ

* 四條畷学園短期大学 非常勤講師

このようにイメージをもって移調唱することで、低音域から高音域まで無理なく声を出すことができ、自然に頭声発声を習得することができる。

幼少期はか弱く聞こえるが、身体の成長と共に響きが増し、豊かで幅広い表現へと繋がっていく。

このような発声法を、保育者を目指す学生の授業でも取り入れている。

●詩

幼児は歌を歌うとき、詩よりもリズムやメロディーの部分的な面白さに興味を示すものである。しかし多くの子どもの歌の詩の内容は、日本の伝統や文化、生活習慣、自然との結びつき、季節感などが込められており、物語の世界や子どもの世界を現したものなど、実に多彩である。その中から子どもたちは言葉や自然、感情などを学び取る。保育者がそこに深い理解や知識を保持していなければならないのは、当然のことである。詩の内容をよく理解し、子どもたちがイメージしやすいよう、話して聞かせる。

では具体的に「ぞうさん」の詩を取り上げてみよう。

「ぞうさん」(譜例2)

譜例2 ぞうさん

アンダンテ

まどみちお 作詞
田 伊 秋 野 作曲

1. ぞうさん ぞうさん おはながいのね
2. ぞうさん ぞうさん だれがすきな の

そ う よ か あ さ ん も な が い の よ
あ の ね か あ さ ん が な す き な の よ

まどみちお 作詞

ぞうさん ぞうさん
おはながいのね
そうよ
かあさんもながいのよ

ぞうさん ぞうさん
だれがすきな
あのね
かあさんがすきなよ

「ぞうさん ぞうさん」は呼びかけ、「おはながいのね」は問いかけ、「そうよ かあさんもながいのよ」は答え。

楽譜には休符がないが、別々に表現するべきである。3句目の息継ぎが「そうよ かあさんもVながいのよ」と表記されているが、意味から考えると「そうよVかあさんもながいのよ」と歌うべきではないだろうか。2番も同様に「あのねVかあさんがすきなよ」と歌うべきだろう。

作者まどみちお氏の解説では、さらに深い意味が隠されているようだ。

『ぞうのこどもが、鼻が長いねと悪口を言われました。こどもはしょげたり、腹を立てたりする代わりに一番好きなかあさんも長いんだよ！と誇りを持って答えます。ぞうのこどもは、ぞうとして生かされていることが素晴らしいと思っているのです。目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから、仲良くしようということです。』

このように、作者の詩に込められた深い思いを理解し、子どもたちに分かりやすく話して聞かせることで、人格形成、豊かな感性や表現力、創造性の育成に繋がる。

3. ピアノ実技

保育現場で必要なピアノの技能習得には根気のいる練習時間が必要である。特に今までに一度もピアノの経験のない学生にとっては大きな課題となっている。さらに短期大学では授業日程からしても、学生の練習時間確保は容易ではない。もちろん、ピアノ技術は高いほうが良い。より高いピアノ技術で子どもたちの歌唱の意欲を高め、豊かな表現に結びつくよう導いていくことは大変重要なことである。だから、いかに効率的で充実した学びを教授するかについて工夫することが必要となってくる。

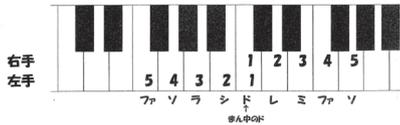
●読譜

ピアノを弾くにはまず楽譜を正確に読み取る「読譜力」を付ける必要がある。本学ではピアノ初心者の学びの助けになる様、独自の冊子を用いている。その一部と授業内容を紹介する。

- ①拍子を取る…拍の概念の認識。
- ②指番号順に弾く…手を見ずに指を動かす。(譜例3)
- ③音階を弾く…指くぐりが出来るようになる。(譜例4)
- ④主要な和音をマークで覚える…手の形で和音をつかめるようにする。(譜例5)

譜例3 指のウォーミングアップ
指番号順に弾いてみましょう。

1. 1 2 3 4 5
2. 1 2 3 4 / 5 4 3 2 / 1 2 3 2 / 1
3. 1 3 1 3 / 5 3 5 3 / 1 3 5 3 / 1



譜例4 音階を弾いてみよう 八長調

ノ譜で弾いたら、1の指を3の指の下でくぐらせて、次の音を引いてください。
逆から弾く場合は / の形で、1の指の上から3の指にかけて、次の音を弾いてください。

(右手) 1 2 3 / 1 2 3 4 5
ド レ ミ . ファ ソ ラ シ ド

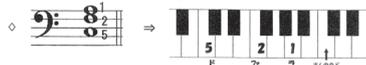
(左手) 5 4 3 2 1 / 3 2 1
ド レ ミ ファ ソ . ラ シ ド

(両手) 1 2 3 / 1 2 3 4 5



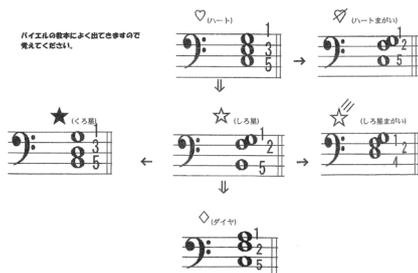
譜例5 和音の形をマークで覚えよう

※ ♪、♡、◇、☆のマークの和音を覚えてください。
※ 和音をマークで覚えるときは鍵盤の左→右、上→下で弾く順序の手順をよく学びます。



よく使う和音

バイエルの巻末によく出てくる和音で覚えてください。



1回目の授業で以上を学ぶことで、バイエルの中盤以降から始めることが出来る。

音名はト音記号の線の音、ミ・ソ・シ・レ・ファ・ラ・ドを覚える。へ音記号はドミソの和音を覚え、そこから数える。音符カード等で少しずつ数えなくても読めるようにする。

リズムは言葉に置き換えて読む。同じテンポで手を叩きながら言葉を言うことで、リズムを理解しリズム感を養う。(譜例6)

譜例6 リズム遊び…1

○ 和を一定の速さで手をたたきましょう。
それができたら、手をたたきながら言葉を言ってみましょう。

- ① し-たけ し-たけ し-たけ し-たけ
- ② まつたけ まつたけ まつたけ まつたけ
- ③ バン バン しいたけ まつたけ
- ④ バッカ バッカ しいたけ まつたけ

リズム遊び…2

音符に色を覚えると…

- ① (し-たけ)
- ② (まつたけ)
- ③ (バン)
- ④ (バッカ)

音を読むときは、ドレミで歌い、音の高低を体で感じる。そして、リズムの上に音を乗せて歌えるようにする。

●演奏

読む・歌う・手を叩く・弾くは学生一人一人の習熟度が異なる為、その学生に合った適切な指導をすることが、最も大切である。このような練習方法を継続して行なうことで、譜読みが早くなり、ピアノを弾くための基礎力が付いてくる。

その上で、学生の能力に合った選曲と、一音も間違わずに楽譜通り正しく演奏するというだけでなく、コード等を用い原曲に近い効果が得られるような演奏能力や、止まらないで演奏する事を指導する。

4.まとめ

忠実な譜読みと正確な演奏は出発点であり、実際には子どもたちが歌うことの快さを感じることが出来るよう、子どもの息遣いや姿から適切な速さとフレーズ感を感じ取り、音量のバランスにも配慮して、臨機応変に対応出来る能力が必要である。

演奏技術のみではなく、より現場が求めている総合的、実践的指導力を身につけるための具体的な指導法の研究を、これからも探求していきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 澤田まゆみ「保育士・幼稚園教諭に求められるピアノ・スキルとは何か」『新島学園短期大学紀要第33号 p.57-66』(2013)
- 2) 中野研也・河野久寿「保育現場で必要とされる音楽能力と、幼児音楽教育との関連」『仁愛女子短期大学研究紀要第44号 p.71-78』(2012)
- 3) 榎内光子ら「保育音楽の現場実践力の向上をめざして養成校の試行」『徳島文理大学研究紀要第80号 p.7-15』(2010)
- 4) 岸井勇雄・大久保稔編「音楽（音楽リズム）」執筆東保 p.106-164 チャイルド本社

－ 2017. 10. 25 受稿、2017. 10. 31 受理 －

